

Economic Monitor

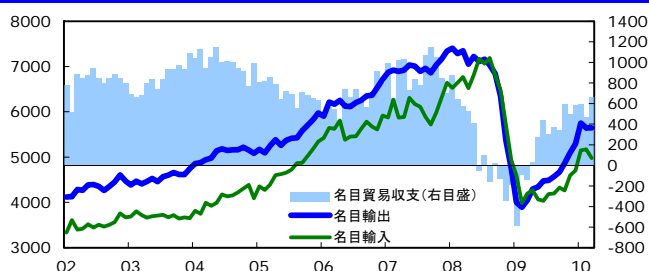
輸出は増勢を維持し、成長率を押し上げ（3月貿易統計）

3月の輸出は一見低調も、アジア向けを中心に増勢は継続。GDPベースでは1～3月期の輸出は前期比9%程度、輸入は4%程度、成長率に対する寄与度は0.9%Pt程度となる見込み。

貿易統計によると、3月の輸出額は前年比43.5%と2月の45.3%から伸びが若干縮小、季節調整済の前月比は0.0%（2月▲1.8%）と横ばいだった。一見すると増勢鈍化だが、ボトムが2009年2月であったこと、季調済前月比で1月に8.6%と急増したことなどを踏まえれば、輸出の増加基調に変わりはない。1～3月期計は季調済・前期比で11.7%と2009年10～12月期の11.1%を上回る伸びを確保し、また当社試算の実質値（季調済）では3月に前月比0.5%（2月3.1%）と13ヶ月連続で増加、1～3月期合計は前期を8.1%（10～12月期8.8%）上回った。一方、輸入額は前年比20.7%（2月29.5%）と大きく伸びが鈍化し、季調済・前月比では▲3.7%と5ヶ月ぶりに減少した。実質値でも3月は前月比▲4.8%と減少しており、輸入の増勢は電気機器や一般機械などの機械関連を中心として、3月に一服したと言える。なお、サービス輸出入を加味したGDP統計ベースでは、財・サービス輸出は前期比9%程度、財・サービス輸入は4%程度の増加が見込まれる。その結果、輸出から輸入を控除した純輸出の成長率に対する寄与度は、前期比0.9%Pt程度と10～12月期の0.5%Ptから大幅に拡大し、成長率を押し上げる見通しである。現時点で1～3月期の成長率を当社では前期比1.3%（年率5.1%）と予想している。

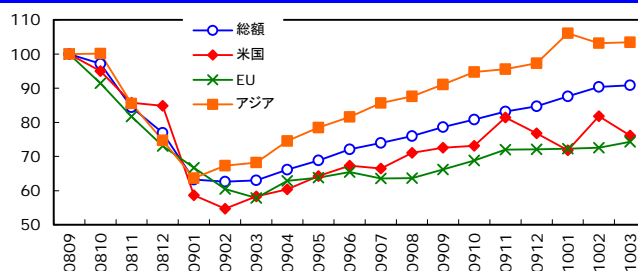
実質ベースで3月の輸出動向を見ると、アジア向けは、2月中旬の春節に備え、中華圏向けを中心に1月に9.1%と急増、2月は春節のために▲2.7%と減少した後、3月は0.3%の微増だった。3月の輸出水準は12月を6.4%上回り（前月比換算では2.1%増加に相当）、春節要因を均せばアジア向けは堅調継続と判断出来る。中国向けは1月前月比13.1%、2月▲8.0%の後、3月は2.0%の増加である。品目別に見ると、3月のアジア向けは、IT関連需要の拡大に伴い電気機器（前月比4.5%）や投資活発化を受けた一般機械（3.9%）が好調だった一方、化学製品（▲1.4%）が低調だった。米国向けは2月に自動車関連を中心に前月比13.9%と急増した反動で、3月は▲6.9%と減少した。2月は、3月の大規模販促策に備えた在庫手当で自動車関連輸出が伸びたが、3月は反動が出た（2月18.7%→3月▲9.7%）。販促や米市場の現状を踏まえると、米国向けの自動車輸出は現状水準で一進一退が続く可能性が高い。EU向けは前月比2.3%（2月0.4%）と自動車関連を中心に増加した。但し、EUにおけるスクラップ・インセンティブなどの買換支援措置は順次終了しており、またEUの景気回復は緩慢なため、EU向けに多くを期待はできない。

貿易収支の推移(10億円、季節調整値)



(出所)財務省

実質輸出の推移(08年9月=100、季節調整値)



(出所)財務省、日本銀行